

内閣総理大臣 菅 義偉殿

日本学術会議の総会を控え、任命拒否を撤回させる署名にご協力を

私は増田 善信（ますだ よしのぶ）と申します。97歳の気象学の研究者です。戦争末期は海軍少尉で、特攻隊員に天気予報を教えて送り出しました。公選制で選ばれた最後の日本学術会議会員でした。

日本学術会議の総会を控え、日本学術会議幹事会は、「6名が所属する第1部（人文・社会科学）の定数の1割近い会員が任命されないため、部会などの運営が困難になっており、特に、4月の総会は学術会議の在り方を決める重要な総会、6名の速やかな任命を要求する」という趣旨の声明を発表しています。しかし、政府は何の意見も述べず、任命拒否を続けています。任命拒否が続けば、学問・思想の自由が脅かされ、学術会議の「政府からの独立」が侵される危機に直面します。

学術会議の前身は学術研究会議で、戦争が厳しくなると、会員も、会長・副会長も全て政府の任命制になり、11あった部会の名称も「音響兵器」、「航空燃料」など直接兵器の研究や「国民総武装兵器」など竹槍でも国を守れ、までの研究も出現し、あの湯川秀樹先生まで原爆の製造に加担させられました。

1946年3月、学術研究会議は、深く反省し、「我々の祖国が、今この筆舌に尽くし難き悲運に逢着しつつある根本原因は、長く政治の局に立つものだけではなく、国民全部が学問を軽視し、真理を無視し、国民の生活、文化、経済、政治の全体が不合理なる精神に支配されてきたからである。（中略）科学者の政治に対する発言権を強化する必要がある」という趣旨の建議をしたのです。日本学術会議はこの建議によって創られたのです。3度にわたる「軍事研究反対」の声明は、この反省からきているのです。

日本学術会議の4月総会が正常に開かれ、学術会議の改組は学術会議の自主性に任せることを要求した署名です。ご協力をよろしく願います。総会前になんとしても撤回させなければなりません。

要請項目

- 1、菅義偉首相は日本学術会議からの推薦会員6名の任命を直ちに行い、日本学術会議の総会が正常に開かれるようにすること。
- 2、日本学術会議の改組に関する井上信治科学技術担当相の要請を撤回し、日本学術会議の自主的な改革を尊重すること

名前	住所

締め切りは2021年4月15日必着：日本学術会議企画課に提出します。

連絡先・署名送付先 201-0003 狛江市和泉本町 2-18-13 増田善信

(2021年3月)